



平成 30 年度まちづくり懇話会 報告書

市民と行政の協働によるまちづくりをさらに推進するため、昨年に引き続き、まちづくり協議会々長と市理事者が一堂に会し、意見交換会を主とした懇話会を開催した。



会の前半部では、総合政策部長が市施策「20XX年 将来のまちづくり」について説明を行い、コーディネーターを務める福井県立大学 江川誠一氏が「まちづくりに応用できる経営分析の手法」と題して講義を行った。

会のメインとなる意見交換会では、23のまちづくり協議会のうち6つの団体が、それぞれ一枚の写真を提示して活動の現状や課題等を発表し、市理事者とまち協、まち協間において、活発な意見が取り交わされた。まち協と市が、地域の課題や市施策を共有しながら、今後のまちづくりに係るビジョンや方向性を確認することができた。

日時 平成30年7月11日（水）午後3時より

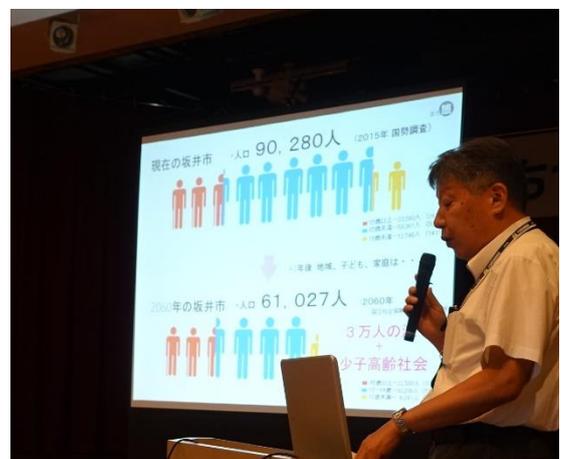
会場 三国観光ホテル

I 部 懇談会 東尋坊の間

進行：まちづくり推進課 古川課長

開会：市長あいさつ

市施策の説明 「20XX年 将来のまちづくり」
総合政策部 小谷部長



意見交換会

コーディネーター兼進行

福井県立大学 地域経済研究所 講師 江川 誠一 氏

・導入部「まちづくりに応用できる経営分析の手法」

・意見交換

1枚の写真から意見交換

(発表者)

雄島地区まちづくり協議会

会長 松村典尚

三国東部まちづくり協議会

会長 南 博之

のうねの郷づくり推進協議会

会長 寺本富二夫

春江西部地区まちづくり協議会

会長 加藤哲務

東十郷まちづくり協議会

会長 五十嵐正博

たかむくのまちづくり協議会

会長 松本盛博



Ⅱ部 懇親会 松島の間

意見交換会 会議録

1 発表者：雄島地区まちづくり協議会 会長 松村典尚

	
<p>一枚の写真</p>	<p>発表</p>
<p>(発表内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりは人づくりといわれるが、今年の大雪では近所の人自主的に雪かきをする姿を見てまちづくりの目指すヒントがあるという思いを伝えたい。 ・ すべての地域が同じ状況だったと思うが、地域のために諦めず皆が何とかしようという気持ちが高まったときである。 ・ 地域の人には地域のために何とかしようという気持ちは持っている。あえて何かを仕掛けなくてもまちづくりに必要なものは、地域の人参加できる場を提供することが大事ではないか。責任を持たされたり強要されたりすると苦手意識が出てしまい参加してくれない。 ・ チャレンジ枠を今年初めて設けた。今年一年で結果が出るとは思っていない。具体的な事業は決まらず、何もない枠だけを設けてそこに誰かが入ってきてほしいという思い。 	

(江川 L)

- ・ 会場の皆さんは自分の地区であったことと重ねて写真を見ていると思う。
- ・ 災害によって眠っていた協働、助け合い、絆といったものが少し出てきたかなという思いを災害ではないところでのきっかけとなればということですね。

(松村会長)

- ・ 地域に住んでいて恩恵を受けるだけではなく、役に立ちたいという気持ちは絶対あると思う。そういう種を大事にしていきたい。今回の行政も追いつかない大雪では自分達で何とかしなければならぬという意識が芽生えたのだと思う。
- ・ 良い答えは見つからないが、できる範囲で何とかしようという思いが育たない限り、地域が生き残っていかない。

(江留上：西畑会長)

- ・ 芦原街道でスタックした際、西長田区長だと思いが 10 人程集めて手伝ってくれた。訓練はできないが区長会やまち協で大雪に対する準備はしておいたほうが良いと思う。



(松村会長)

- ・ 常日頃から顔を知って繋がりを持つことで、いざという時に助かるのではないかと。それが地域力に繋がるのではないかと感じる。

(春江中部：矢部会長)

- ・ 今回の大雪ほど追い込まれないと助け合いの状況にならないという現状がある。
- ・ 行政支援が手厚くしすぎてしまうと逆に地域の繋がりが薄れてしまうのではないかと感じる。
- ・ 「向こう三軒両隣制度」みたいな制度を行政側から打ち出し、地域の繋がりを深める機会を増やしてほしい。



(松村会長)

- ・ 「遠くの親戚よりも近所の他人」と言うように、いざという時に頼りになるのはいつも接している近所の人達ではないか。大きな話だが、世界を変えようと思ったら自分が接している近所から変えていかないと世界は変わらないのではないかと。

(江川 L)

- ・ 大雪に関する意見は多いと思うが、市から何かコメントはないか。

(宮本部長)

- ・ 今回の除雪対応には、市としても除雪業者としても精一杯対応させていただいたが、追いつかない状況の大雪ということで市民の方にご迷惑をおかけした。
- ・ 想定外の大雪ということで、除雪機は壊れる、オペレータが怪我をするなどいろいろ重なり想定内の除雪もできなかったということで大いに反省し、次の除雪計画の見直しをしている。
- ・ 市民の方の自助、共助により努力していただいたおかげで何とか費用の方も抑えられた。感謝している。



2 発表者：三国東部まちづくり協議会 会長 南 博之



一枚の写真



発表

(発表内容)

- ・ 当地区は、まち協行事に毎年多数の方が参加し、防災・防犯部会のカーブミラー清掃や敬老会など、身近な活動から地区をあげたイベントまで様々に活動している。
- ・ 写真は今年 5 月 27 日に実施した体育祭の写真で 43 回を数える歴史ある行事である。
- ・ 継続の秘訣は、必ず日曜日に開催していることである。また、地区外に出た若い世代の人でも参加できるように、地区に残っている親達が子や孫に連絡し参加してもらっている。体を動かす目的の体育祭ではなく、顔を会わせる機会や帰省するきっかけとしての体育祭としている。地区人口が 400 人程度のところ約 250 人の参加がある。
- ・ プログラムも伝統芸能継承を目的に三国節を踊り、高齢者や幼児用のプログラムでは何らかの参加賞を用意している。プログラム順も時間帯を考慮しており気軽に参加できる要因になっている。
- ・ 一方で当地区も少子高齢化が進み、小学生はわずか 10 人程度、60 歳以上の割合が 4 分の 1 を占め、高齢者のみの世帯がかなり増えている。
- ・ 地区活性化の会議をしても、「若い人がいない、いても仕事等で行けない」のが現状で、新規行事実施は難しいと感じている。個々の家庭事情も考慮しながら、地域住人のニーズをとらえ、魅力ある行事などを今後の検討課題として考えていかなければならない。
- ・ 明るい兆しとしては、小学生以下の未来の担い手が増えてきている。その子どもたちのためにも良いところは続けていきたいと思っている。

(江川 L)

- ・ 非常に歴史ある地区の体育祭ということで悩み事も含め紹介いただいた。
- ・ 関連性もあるので引き続き、のうねの郷づくり推進協議会からの発表をお願いする。



3 発表者：のうねの郷づくり推進協議会 会長 寺本富二夫



一枚の写真



発表

(発表内容)

- ・ 長畝地区約 1,500 世帯。まち協ができたときに体協を含め全ての団体が加入した。
- ・ 当地区には、3つの大きな行事がある。2,000~3,000 人の参加による地区運動会。毎年夏休みの最初の土曜日に小学校でラジオ体操会をクイズなどを盛り込み実施している。今年はグラウンドの草取りを行なった後に体操をする予定で、1,200 人程の参加を見込んでいる。最後は、写真の行事であるが、4 年前からコミセン祭りとお老人会を同時開催している。お老人会は高齢者に喜んでいただき、コミセン祭りは全ての人が対象ということ。また、講座生の発表の場でもある。延べ 3,000 人の参加がある。
- ・ 小学校体育館のステージが高いので、発表者との目線を合わせるために 60 cm の高さのステージを作った。子供の利用もしやすくなり距離感が近くなった。
- ・ お老人会対象者は増加しているが、参加者・参加率が減少してきている。安全を考慮しすべてバスで送迎しているが、昨年 913 人の対象に対し 260 人程の参加であった。
- ・ 開催名も「のうねシルバーフェスタ&郷まつり」とし、抽選会も高齢者向けと一般向けに分けて工夫している。体育館も下足で入るようにしているし、パンフレットも高齢者用と一般用とに色分けして 2 種類を全戸配布している。
- ・ 高齢者が退屈な時間はないか。送迎はこれで良いのか。参加者が微減している点や講座生の発表が時間の都合上 2 年に 1 度しかできないことなど反省点があるので、毎年少しずつ実行委員会でアイデアを出し合いながら改善している。
- ・ 当地区の良い点は、小学校とコミセンが隣接しコミセン前に大駐車場がある。この立地性が良いところを十分生かした取り組みをしていきたい。

(江川 L)

- ・ 二つの協議会からは体育祭やフェスタ等のイベントについて、悩みも抱えつつ試行錯誤し少しずつ改善してきている段階ということであった。何か意見や質問等はないか。

(春江西部：加藤会長)

- ・ 私の地区も 4 年前からお老人会とコミセン祭りを同時開催している。お老人会の雰囲気をもみんなで共有

しようという趣旨で実施したが当初はかなり抵抗された。今では区長などが良かったと言ってくれている。それは、2 回の負担が 1 回で済むからである。また、高齢者やスタッフも負担が減り、しかも賑わいが増して三世代交流に繋がったことで賛同を得ている。

- ・ 今年 は 7 月 1 日 開催 であ った が、 猛 暑 の た め 特 に 高 齢 者 は 外 の 催 し へ の 参 加 が 困 難 であ った。



(春江東部：阿津川会長)

- ・ 三 国 東 部 と 同 じ よ う な こ と を 相 当 以 前 に 春 江 東 部 で も 行 っ て い た こ と を 思 い 出 し た。
- ・ 3 年 前 か ら 新 し い 事 業 を 募 集 し て い る。 問 題 点 で も あ る が ア ナ ウ ンス や プ ロ モ ー シ ョ ン を ど う し て い い の か 具 体 策 が な い 中 で、 よ う や く 音 楽 の 部 会 的 な も の を 新 設 で き た が、 新 し い こ と を 求 め る の も い い が 事 業 の 復 活 的 な こ と も 考 え る こ と は 大 事 な こ と だ と 三 国 東 部 体 育 祭 の 写 真 を 見 て 感 じ た。
- ・ 春 江 東 部 地 区 1,600 世 帯、 6,000 人 弱 で 1 割 の 参 加 者 で 500 人 を 超 え る。 す ぐ に は で き な い だ ろ う が、 こ の 人 た ち が 世 代 間 交 流 が で き 楽 し め れ ば い い。 来 年 に は 新 コ ミ セ ン が 完 成 す る の で 何 か 笑 顔 が 見 え る よ う な 事 業 を 展 開 し て い き た い。



(江川 L)

- ・ す ぐ に 新 し い も の と 言 っ て し ま い が ち に な る。 古 く か ら あ る も の を 活 性 化 さ せ て い く と い う こ と と 違 う 形 で 復 活 さ せ る と い う こ と が あ る が、 そ う い う 視 点 が 大 事 で あ る と、 私 も 写 真 を 見 な が ら 思 っ て い た。
- ・ イ ベ ン ト は 人 の 繋 が り が 三 世 代 で 見 直 さ れ る こ と も あ る し、 新 た な 人 材 が 出 て く る 場 で も あ る。 や り 続 け れ ば や り 方 の ノ ウ ハ ウ な ど が 地 域 に 残 っ て い く の で、 た と え 一 過 性 の イ ベ ン ト で も い い の で チ ャ レ ン ジ が 大 事 で あ る。



4 発表者：春江西部地区まちづくり協議会 会長 加藤哲務



一枚の写真

発表

(発表内容)

- ・ 絆づくりという観点から発表したい。
- ・ 坂井市では人口減少が進んでいるとのことだが、当地区は宅地造成があり福井市のベッドタウンとして人口は増えている。
- ・ 昔からの集落の人と転入してきた人が混在する状況でいかに結びつけるかが重要課題となっている。
- ・ 当まち協は「地域住民 みんなで楽しむまちづくり」を基本理念とし、まちづくりは人づくりと思っているので、一人でも多くの協力を得られるような仕掛けをつくり、そして仲間をつくっていくことを考えている。
- ・ その取り組みの一つが、この写真で分かるように磯部川のクリーンアップ作戦で 2 年前から環境部会を中心とし、3 月に約 5 km 区間をまち協会員、15 の区長、流域住民、企業、各種団体で実施している。これは、地区のシンボルである磯部川沿いの親水公園化、ウォーキングコースとする狙いと同時に共通体験をとおしての絆づくりとなっている。
- ・ 本当ならばもう一枚紹介したい写真があるが、今年 4 月に耐震補強を終えリニューアルオープンした当コミセンの一面にまち協として「ふれあいカフェ Wa Te Ra (わてら)」を設置した。外にはまち協の予算からウッドデッキを製作。まち協の会議やコミセン利用者の休憩場所、ギター練習場に利用され、いろんな形で利用され始めており絆づくりに繋がってきていると思う。
- ・ 今後のまち協としての課題は、現役 PTA 世代の取り込みをどうしたらよいかがある。なかなか会員が増えないというのは共通の課題だが、どのようにアピールして良いのか知恵をいただきたい。

(江川 L)

- ・ 「ふれあいカフェ Wa Te Ra (わてら)」の写真も見てみたいと思った。
- ・ 引き続き「東十郷まちづくり協議会」から発表をお願いします。

5 発表者：東十郷まちづくり協議会 会長 五十嵐正博



一枚の写真



発表

(発表内容)

- ・ この写真は、JR 丸岡駅舎を改装し「駅舎でコンサート」と名を打ちコンサートをしているところ。
- ・ コンサートは教育文化部会が中心となり企画運営しており、この場所は「ごうちゃんホール」と名付けて作品展示やコンサートを行っている。
- ・ 当協議会は、今年で 10 周年目を迎えるが、市内のまち協設立で一番遅いのではないかと思います。設立には大変苦労したと聞いているが、他のまち協の部会を参考にして何とか設立した。
- ・ このコンサートは、年に 1 回 9 月下旬から 10 月上旬の土曜日に JR 丸岡駅の駅舎を会場として、合唱、エレクトーンやオカリナなど楽器の演奏、紙芝居や語り部による読み聞かせなど幅広い内容で行われ、コミセンの講座生の発表の場にもなっている。
- ・ 駅舎は、平成 12 年頃に無人駅になり旧坂井町時代に改修工事が行われた後、駅前有志によるコンサートを開いた。一時ブランクはあったが、平成 22 年に坂井市による再度の改修、改装工事が行われコンサートを復活させ現在に至っている。ホールは市が管理しており、ホールを借りる際は地域振興課で手続きをしている。
- ・ まち協事業では、コミセンに喫茶コーナーを設け、いつでも気軽に立ち寄れる市民の憩いの場を作る。二つ目は立体間取り作家のジオラマ作品展とクラフト教室を行い、もの作りの素晴らしさ・楽しさを味わう。三つめは、福井地震 70 年の節目として記録等をホールに展示したり冊子にまとめて残す。
- ・ 課題としては、活動内容が同じで新事業に苦労しているが、喫茶コーナーに集まる人の意見を聞きながらマンネリ化を打破していきたいと考えている。

(江川 L)

- ・ 私が高校時代に利用していた時は無人ではなかった。今の状況を見ると違った雰囲気です昔と違うような活用の仕方をされており素晴らしいと感じた。写真でもよく伝わってくる。
- ・ 二つのまち協に発表をいただいた。春江西部は磯部川と新コミセンを活用していろんな取り組みをされている。東十郷の方もコミセンと丸岡駅舎を使った様々な活動を行っているということで、今ある地域資源を上手く活用して何かほかのことに生かせないかを模索してたどりつた結果と拝見している。関連して質問や紹介などはあるか。

(雄島：松村会長)

- ・ 確かに PTA の人が参加してくれると非常に助かる。昨年のフェスタではかなり PTA の人に協力をいただいた。まず、子供が多数集まることで父母、祖父母が参加し三世代交流が生まれ賑やかになる。これは PTA 役員の人間性もある。

(江川 L)

- ・ 春江西コミセンの「Wa Te Ra (わてら)」に何か子供を呼び込むような取り組みは考えてないか。

(春江西部：加藤会長)

- ・ これからという段階。ふれあい交流部会を中心に企画を練っているが、子ども食堂ができたらいいと考えている。具体的なものは無い状態。

(江川 L)

- ・ 子供とか PTA というのが一ついろんな場面でカギになるのかと拝聴した。
- ・ 行政からは何かないか。

(川元教育長)

- ・ PTA の協力により地域づくり、まちづくりができるということは本当にそう思う。子供達がふるさとの特色をしっかりと学び、成長する中で自分の生まれた場所が立ち位置になるという部分が非常に大事になってきている。学校も地域に根差した教育でなければならないので、もっと学校を巻き込んでほしい。
- ・ 例えば、夏休み期間中に子供会中心で壁新聞活動を行っているが、坂井市は特に優秀である。これは、皆で地域を探索するとか年寄りとの会話を記事にしていけることが地域との結びつきになっていくので、地域に子供達を引っ張り出してほしい。よろしく願います。



(江川 L)

- ・ 私の方からは、東十郷の場合は小中学校に加え坂井高校が立地している。管轄等の問題はあるかもしれないが、貴重な地域資源の組み合わせができると思うので期待したい。
- ・ 丸岡駅は北陸新幹線が開通すれば三セクの駅になる。県や市が出資した会社のものになるので、現在よりも活用の自由度が増すと思われるので、いろんな活用方法を 5 年後に向けて夢を描いてはどうかと思う。



6 発表者：たかむくのまちづくり協議会 会長 松本盛博

	
<p>一枚の写真</p>	<p>発表</p>
<p>(発表内容)</p> <p>【関連資料を配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明智光秀主人公、2020年大河ドラマ、麒麟が来るという題名の写真だが、皆さんは何がまち協と関係あるのかと不思議に感じていると思う。実は、明智光秀と称念寺は非常に関係が強い。まち協事業に宗教的なものはあまり相応しくないかもしれないが、歴史的に重要なものについては我々が次の世代に伝えていかなければならないという思い。 ・ 当まち協は、2020年の大河ドラマに向けて明智光秀を取り上げたまちおこしを事業計画に組み入れていこうと考えている。そこで、ここに参加の坂井市の皆さんに知恵を拝借しどのように組み入れていった方が良くをお聞きしたい。なぜ、坂井市の皆さんかという、三国の雄島も大いに関係があるから。 ・ 当協議会は、「観光客の誘引」と「そのおもてなし」を念頭に置いて事業計画を検討している。 ・ 配布資料をご覧いただきたい。光秀は1556年明智城が落城し妻子や家来とともに称念寺に逃れ約10年間再起を伺っていた。また、称念寺境内には松尾芭蕉の句碑がある。これらのことから称念寺は光秀ゆかりの寺であり、秋の国体・障スポ元気大会に来県する人をターゲットにして観光客を坂井市に誘致したいと考えている。皆さんのアイデアをいただき、まち協の事業を展開していきたい。まちおこしのチャンスが到来していると捉えている。 	

(江川 L)

- ・ 明智光秀というと従来は謀反人というイメージが強かったが、近年は歴史的評価が変わってきて一般の人の見方も大河を機に変わるのではないかと期待しているところ。
- ・ その中で、たかむくのまちづくり協議会から面白い提案と皆さんへの問いかけがあった。関連して意見や感想などないか。

(春江西部：加藤会長)

- ・ 長崎称念寺というと確か新田義貞の墓があるので、いわゆる「滅びの美学」という関連で何かできるのではないか。

(江留上：西畑会長)

- ・ 称念寺で何か良い名物として食を PR し攻めていったらどうだろう。静岡でも焼きそばや餃子で成功している。

(たかむく：松本会長)

- ・ 既にロケは始まっているが、原作者の原稿がどうなっているかわからない。称念寺や大湊神社が入っているのであれば全国に放送されるので観光客は期待できる。何か原作者に働きかけて入れてもらうなど市としても考えてほしい。

(北川副市長)

- ・ 当件は市としても非常に関心を持っている。NHK に県と市で称念寺を取り上げてほしいと要望した。原作もいろいろあるみたいで難しいと思うが、市としても努力はしている。
- ・ 当然、誘客にも繋がり観光的な面もある。市としていろんな方向から考えていくのでまち協活動もよろしく願います。



(江川 L)

- ・ 何か歴史的なものとか歴史の痕跡、伝説とかを拾うようなことをすると良いと思う。
- ・ 以上、1 枚の写真ということで従来の発表とは異なり少し焦点が変わった。実績報告ではなく思いが交わされたのは良かったと思う。全体を通して何かご意見、感想等はないか。

(大関：盛政会長)

- ・ 今年の大雪に対しまち協が出る場面がなかったというか出せなかった。まち協は防災のことを考える場ではあるが、実際の災害が起きたときにまち協が担う役割はどういうポジションなのか考えている。他のまち協はどうしたか教えてほしい。また、市が求めるものは何か。
- ・ 仲間づくり、役員の担い手、人材不足が切羽詰まっている。会員の高齢化が進むが若者はなかなか入ってこない。市も人材育成には取り組んでいるが、すぐに結果が出るものではないと感じている。そこで、一番の即戦力として期待できるのは市職員が地元に戻って一市民としてまち協に参加することだと考える。あるいは、毎年退職する人がどうやって地域に関わっていくのかというところを理事者や職員はどういう意識でいるのか聞きたい。



(たかむく：松本会長)

- ・ 大雪にはまち協として対応しなかった。というのもコミセンが自衛隊の詰所になり立入禁止になった。どうしようもなかった。

(春江中部：矢部会長)

- ・ まち協の活動ではなかったが、降雪が落ち着いたところに小中学校から PTA に除雪依頼があった際に、まち協のホームページやフェイスブックを通して地域の人に協力を呼び掛けることをした。
- ・ 仲間を増やすというところで、学校単位で温度差はあるが PTA も何をしていいかわからない状態。活動がマンネリ化しているというのであれば、是非まち協から声をかけてはいかがか。

(磯部地区：中垣内会長)

- ・ 大雪に対してまち協としての活動はできなかったが、まち協のメンバー同士の連絡で情報を共有し通学路の除雪を PTA、まち協メンバー、地域の人でできた。やはり、まち協でできた人脈や繋がりを活用できたということ。
- ・ それから、若い人の人材育成ということだが、当地区では今年から連絡会議をスタートさせた。各種団体の代表者が集まりそれぞれの課題を共有しまち協が手伝いできること、例えば資金面や人材面などを協力していくことや年間行事の中でまち協も参加できるものや逆にまち協の事業へ団体に協力してもらおうとかというようなことを始めている。こういった形をとれば各種団体をいかに巻き込んでいくかというところが、まち協の活性化になるのではないか。



(江川 L)

- ・ まち協が災害時にどういう役割を果たすのかということだが、災害が発生した時にその災害の範囲がまち協に見合ったものなのかがどうかがある。例えば、今回の大雪で細い路地の対応はまち協でなくてももっと狭いところに対応すべきで、その方がうまく機能したのかと思う。
- ・ 発表にあったように事前の準備やネットワーク、初期対応後の対応については、まち協の役割は改めて出てくるだろう。もしかしたら、まち協の果たす範囲の中で地震などの災害の場合は、役割はあるかもしれないだろう。

(古川課長)

- ・ 大雪の際、ほとんどのコミセンがやむなく一週間以上休館、閉館した。独自のネットワークや準備など各まち協独自の対応策や協力により継続して開館できる状態にもっていったらと考えている。



(江川 L)

- ・ 二点目の市職員あるいは、退職職員の活用というか職務の兼ね合いといったところはどうか。

(宮本部長)

- ・ 職員の地域での活動については、絶えずアナウンスをしている。特にまち協に関しては敬老会やまち協総会に積極的に参加するよう周知しているし、あわせて地域での各種団体活動等の参加についても同様としている。実態の状況把握はしていないが、常にアナウンスをすることで積極的に参加

している事を期待しているところ。

(古川課長)

- ・ 各センター長からも市職員をまち協にという強い要望を聞いている。その中で、市職員の活用として具体的な要求を直接地域の職員を集めて示してほしい。場合によっては、まち協会長も入り地域の職員と語り合う場ができればと思っている。これからセンター長会議もあるので提案していきたい。協力をお願いする。

(大関：盛政会長)

- ・ 一点目については、日頃のネットワークづくりが大事だと思っていたので同感した。
- ・ 二点目については、イベントでの手伝いもありがたいのだが、普段からの部員としての参画ができるようにしてもらいたい。賛否両論あるが、まちづくりに参画している職員の数値割合を把握している自治体もあるようだが、坂井市も調査し把握してもいいのではないか。理想的な数値は無いかもしれないが一市民として一部員として参画することに期待する。市のまちづくり基本条例にもしっかりと謳われている。

(江川 L)

- ・ 議論は尽きないが、最後に市長から一言いただきたい。

(坂本市長)

- ・ 本日はまちづくり懇話会ということでいろんな意見をお聞きできて感謝する。普段のまち協の大変な努力によって坂井市がますます発展していくと思っており、一番大事と思っているのは人と人との繋がりである。これがあってまち協が成り立っているのではないかとと思っている。
- ・ 本音として、まち協にあまり負担をかけたくないというのがあるが、地域にお兄さんのまち協があることは本当に心強いかぎりである。
- ・ コミュニティセンターも改修をしているが精一杯取り組んでいきたいと思っているところ。
- ・ 今後、どこまで行政ができるかという限界もある。やはり自分達の地域は自分達でという考えが基本になっていくと考えている。その中でできないものは行政が精一杯応援していく。
- ・ 今後いろんな意見をいただきながらまち協と行政が一緒になって取り組んでいくことが坂井市全体の発展に繋がっていくものと思っている。今後ともよろしく願います。



(江川 L)

- ・ これで、平成 30 年度まちづくり懇話会を終了します。活発な意見をありがとうございました。